

今こそ関西に 組込みソフト産業 の種を

日本政府が「2005年までに世界最先端のIT国家となる」との方針を打ち出した1990年代後半、日本の情報通信を発展させようと、いろいろな取り組みが行われました。それが功を奏しインターネットは普及しましたが、根付かなかったものもたくさんありました。一見、それらは失敗のように見えますが、実は環境を整えるための投資なのです。一度種をまけば必ず成長して花が咲くというものではありません。荒地に種をまいても育たないのは当然で、はじめのうちは後々の種が育つよう、環境を改善する活動が不可欠です。ITに関しては、その後さまざまな施策によりブロードバンド利用者が増え、その相乗効果で環境が整い、種をまけば育つ土壌ができてきたと感じています。“2010年にユビキタスネット社会を実現する”との政府の現在の目標も夢物語ではなくなってきました。

インターネット、放送、映像、印刷…と情報通信産業の枠組みは非常に大きくなり、いまや、どの産業も情報通信抜きには成り立たなくなりました。ユビキタスネット社会が実現すれば産業構造はさらに大きく様変わりするでしょう。産業・ビジネスの枠組みも変わります。産業やビジネスの集積は一朝一夕にできるものではなく、ある程度環境が整って初めて始まることを考えれば、これからわれわれが関西にどのような種をまき、育てるのかを今から考えなければなりません。

そこで注目されるのが組込みソフト産業です。世界的な情報家電メーカーが数多く立地し、東大阪にもものづくりの集積がある関西は情報家電産業が非常に強い。そして目前に迫るユビキタスの時代。ユビキタス社会の実現にはあらゆるものに通信機能を搭載する必要があり、それには組込みソフトウェアが欠かせません。組込みソフト産業が関西に集積すれば、既に集積のある情報家電産業、ものづくりの技術と合わせて、ユビ



森下 俊三氏

Shunzo Morishita

西日本電信電話社長

キタス時代の最も強力な産業集積エリアとなり、日本全国、アジアからも人が集まるようになります。今こそ、関西で組込みソフト産業の振興に取り組むべき時です。

関経連では産学官が協力して組込みソフト産業集積の基盤を作ることをめざし、8月6日に「組込みソフト産業推進会議」を立ち上げました。ソフトウェアを開発する人材を育成しながら産業の集積につなげる取り組みができないかを検討します。例えば、アジアの人々が関西で組込みソフトについて学び、その知識を活かして関西の情報家電メーカーで働いて経験を積み、帰国後もその国に進出している同じ企業に勤務することができるような仕組みができれば、アジアの人々も非常に魅力を感じるのではないのでしょうか。

ネットビジネスは大学の研究室や企業の中ではなく大学のカフェテリアで育つと言われています。各分野の専門家が集まる場所で互いにコミュニケーションすることで新しい発想ややり方が生まれるからです。大学やさまざまな企業が集まるであろう梅田北ヤードにも同じような働きが期待できます。そこに組込みソフト産業がなんらかの形で集まればビジネスチャンスが生まれ、集積がさらに加速する動きが出てくるかもしれません。そのためには2011年のまちびらきを待つのではなく、今から組込みソフト産業を関西で育てていかなければならないのです。土壌を整えてから種をまいてこそ、大きな花が咲くことをわれわれは身をもって経験してきたのですから。

談